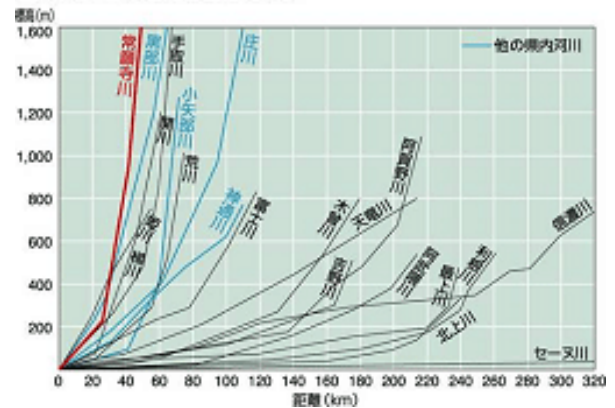


第613回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 世界屈指の急流河川常願寺川

常願寺川はその源を富山・岐阜県境にそびえる北ノ俣岳（標高2,661m）に発し、湯川、次いで称名川、和田川が合流し富山県の中央部をほぼまっすぐ日本海へと流れています。源流の山間部から河口までは約3,000mもの標高差があり、その長さは56kmと短く、常願寺川はわが国屈指の急流河川となっています。

世界的にも有数な急流河川群



2. 立山カルデラ砂防博物館

..... 富山県中新川郡立山町

立山カルデラは火山活動と浸食作用による独特の自然をもつ日本でも有数の大規模崩壊地であり、立山の自然史を解くために重要な地域です。また、立山カルデラは多量の崩壊土砂が残留し常願寺川流域に度重なる土砂災害をもたらしてきたため、富山平野を守るために100年余りも前から日本でも屈指の砂防事業が続けられている地であります。

立山カルデラ砂防博物館では立山カルデラにおける人と自然の関わりを広く紹介しています。



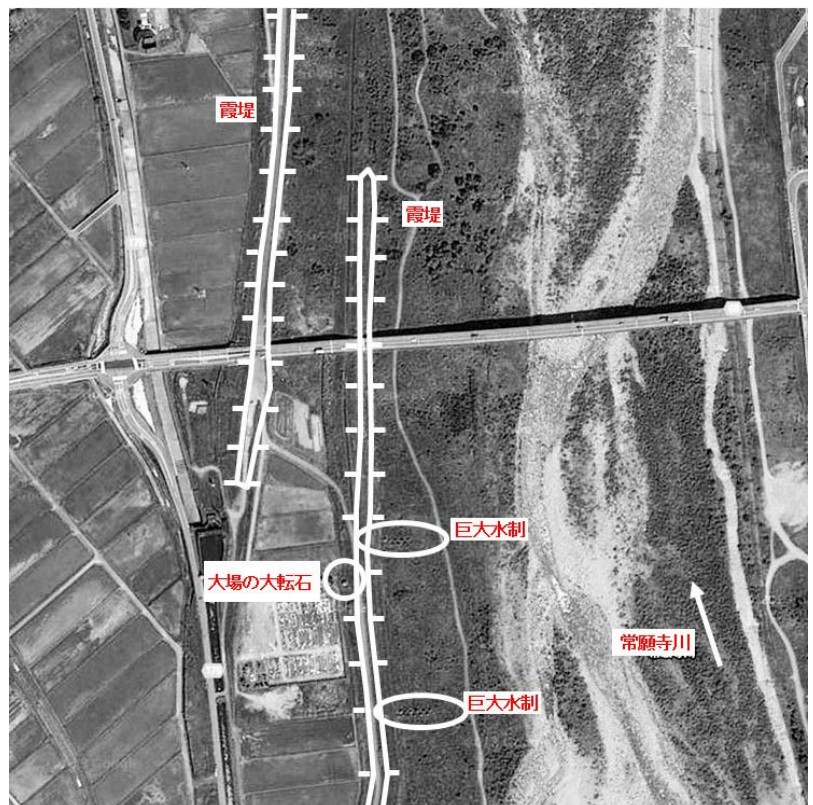
3. 大場の大転石／霞堤／巨大水制

..... 富山市西番地先

巨大水制：昭和26年に常願寺川で開発されたピストル型水制で、現在は全国の急流河川で使用されています。



大場の大転石：常願寺川の扇状地にある安政5年（1858年）の大地震による土石流で運ばれた大転石です。



霞堤：連続する堤ではなく、あらかじめ間に切れ目を入れた不連続の堤防が主で、不連続点においては上流側堤防が下流側堤防の堤外（河川側）に入れ込んでいます。不連続部周辺の堤内（生活・営農区域）側は予め浸水を予想されている遊水地で、それにより洪水時の増水による堤への一方的負荷を軽減し、決壊の危険性を少なくしています。

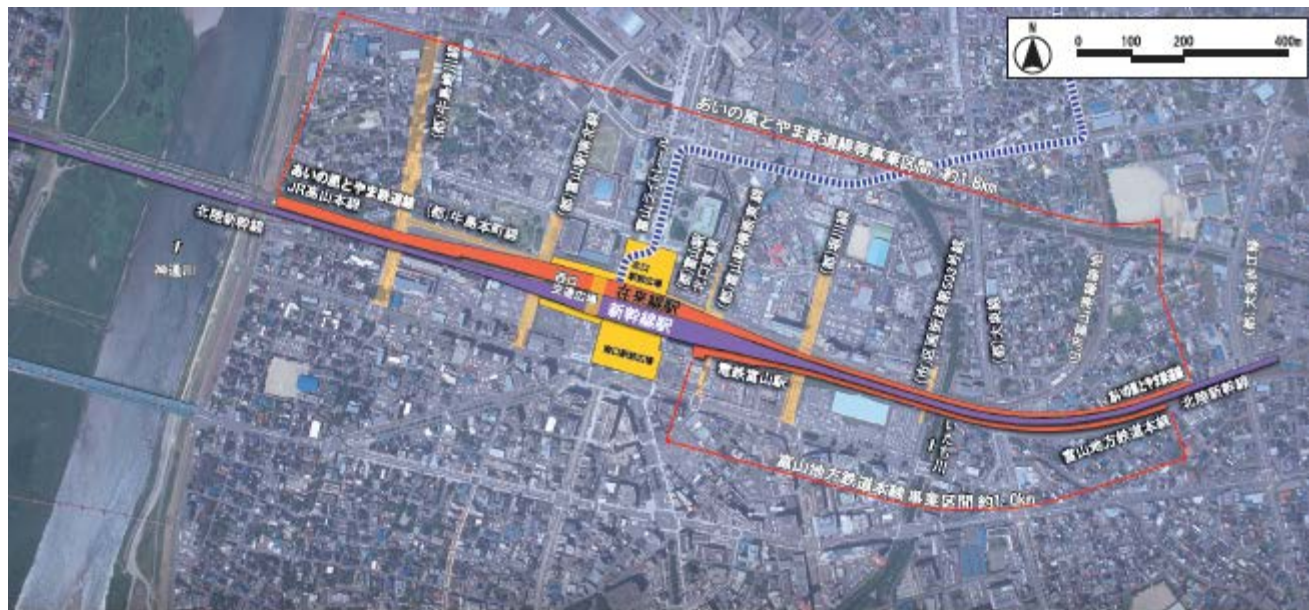
4. 富山駅付近連続立体交差事業

…………… 富山市明輪町他

富山駅付近では北陸新幹線の整備にあわせて駅周辺地区の交通渋滞の解消と鉄道によって分断された南北市街地の一体化を目的として、平成17年度から在来線を高架化する連続立体交差事業を行っています。

駅付近には高層マンション、ホテル等があり事業用地が限られていることから、J R 富山港線を路面電車化して別ルートに移設し高架ホームのコンパクト化を図るとともに、新幹線開業までにあいの風とやま鉄道上り線と J R 高山本線を施工し、その後、仮線の上り線のスペースに下り線を施工する 2 段階施工として進めています。平成22年度に在来線を北側に敷設した仮線路に切り換えた後、平成23年度から 1 期の高架化工事に着手し、平成27年 4 月20日の始発列車から高架ホームに切り換えられました。

引き続き、あいの風とやま鉄道の下り線と富山地方鉄道本線の高架化を進めるとともに、駅部での路面電車の南北接続や南北を連絡する歩行者通路の整備など駅周辺施設の整備とあわせ、県都にふさわしい魅力ある都市を目指します。



5. 路面電車南北接続第 1 期事業

…………… 富山市明輪町他

富山市は公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを推進しており、とりわけ、交通結節点である富山駅周辺の整備においては、県都富山市の玄関口に相応しい L R T の走る高質で魅力ある都市空間の創出を目指しています。

路面電車の南北接続は都心地区と北部地区とのアクセス強化や利便性向上など公共交通活性化を図る観点から、富山駅南側の富山地方鉄道富山軌道線と北側の富山ライトレール富山港線の接続を図るものです。接続区間には制振軌道を採用するとともに、高架下停留場はバリアフリー対応に加え、地場産材であるアルミや工芸ガラスの活用など、新幹線、在来線からの乗り換え利便性の向上と質の高い軌道空間の創出を図っています。

平成27年 3 月14日（土）の北陸新幹線開業日にあわせて、路面電車南北接続事業の第 1 期区間（富山駅南口広場から北陸新幹線富山駅高架下まで）が開業しました。引き続き、第 2 期区間の事業を推進しています。

